

北海道がんセンター皮膚科のご紹介

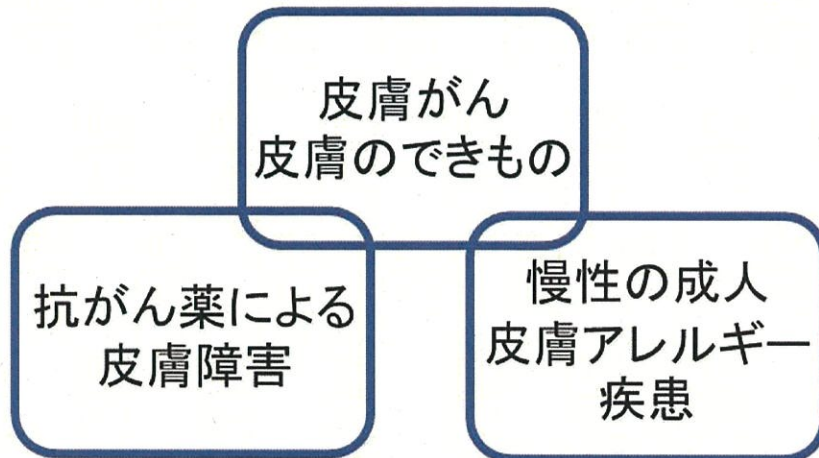
北海道がんセンター皮膚科は、旧国立札幌病院時代より皮膚腫瘍、特に基底細胞がん、有棘細胞がん、悪性黒色腫などの皮膚がん治療を数多く行ってきた実績があります。初診で、皮膚がんの疑いがある患者さんにつきましては、CTなどの画像検査や血液検査等も含め、事前に調べなければならないことがたくさんあるため、一般的な皮膚疾患の患者さんよりも診療時間がかかり、通院日数も長くなります。

近年、新しい抗がん薬は飛躍的に進歩し、多くのがんに対して薬による治療が有効であることがわかってきました。一方、抗がん薬により、皮膚障害に悩まされる患者さんも数多くいます。私どもの科は、抗がん薬による皮膚障害を数多く扱っており、血液腫瘍、肺がん、消化器がん、婦人科がん、泌尿器がん、乳がん、頭頸部がん、骨軟部腫瘍などの治療中における皮膚障害に関して専門的に治療にあたっています。しかし、一部の皮膚障害の治療には保険が使えず、自費診療になってしまうケースもありますので、ご了解の上、受診していただければと思います。

2012年10月作成

2014年8月改定

がんセンターで診療にあたっている皮膚疾患



現在は診療していないもの：小児皮膚疾患全般、爪切り、みずいぼ、たこ、うおのめ、円形脱毛症、多汗症、しみ、そばかす など
上記の一般的な皮膚病では、まず近くの皮膚科医院を受診してください